

高次脳機能障害のある子どもへの支援

特集にあたって

高次脳機能障害のある子どもへの看護をすべての看護職が実践するために

高次脳機能障害のある子どもは全国で70,000～80,000人程度との推定報告¹⁾がありますが、正確な実態は明らかではありません。障害の原因は外傷や脳症、腫瘍などで、後遺症の記憶障害、遂行機能障害、感情コントロールの低下、固執性などが生じた子どもは、セルフケア能力の低下が生じることや、周囲の人とのコミュニケーションが難しくなるなど、日々の生活に多くの困りごとを抱えます。

学校では学習の困難のほか、ストレスやいじめなどを経験し、自尊心の低下や不登校などの二次障害といわれる問題が生じています²⁾⁻⁴⁾。

2001(平成13)年に開始した国の高次脳機能障害支援モデル事業後、各都道府県に高次脳機能障害支援拠点が設置され、高次脳機能障害支援コーディネーターが活動していますが、子どもへの支援体制は確立していません。

子どもに対する支援は、医療、福祉ともに一部の専門医療機関や子どもへの支援経験のある職種による限定的な支援にとどまっていますが、子どもへの支援に対する意識は高まっています。

高次脳機能障害のある子どもへの看護援助は、リハビリテーション看護師が実践知を積み上げており、それらは子どもにかかわるすべての看護職に必要な実践知です。リハビリテーション看護師は積み上げてきた実践知を広く伝える役割を意識する必要があります。また、急

性期の子どもにかかわる看護師や小児がんの子どもにかかわる看護師は、これらの実践知を取り込むことによって、子どもが必要とする継続した看護援助を提供することができると考えます。

本特集は、看護援助に必要なと考えられる多様な内容を紹介しています。多くの実践に取り込まれることを期待します。

本特集を企画するにあたり、協力いただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。

【文 献】

- 1) 栗原まな：全国に何人くらい高次脳機能障害をもつ子どもがいるの？。よくわかる子どもの高次脳機能障害、クリエイツかもがわ、京都、2012、pp 36-39。
- 2) 馬屋原誠司、岡本茂樹：後天性脳損傷を抱える子どもと家族への支援の進め方；教育現場のスクールカウンセラーとしての取り組み。九州レーテル学院大学心理臨床センター紀要 8：55-63、2009。
- 3) 小原真知子、小林理：スクールソーシャルワークにおける協働・連携に関する基礎的研究；高次脳機能障害児の復学支援からの検討。東海大学健康科学部紀要 16：15-24、2010。
- 4) 池田理恵子、高橋智：学齢期の高次脳機能障害児の困難・ニーズと支援に関する研究；保護者調査から。東京学芸大学紀要(総合教育科学系) 60：293-321、2009。

東京医科大学医学部看護学科教授
小室佳文 Komuro Kafumi